

TYPE OF INDUSTRY



科学技術・大学



中学・高校時代からいい音の出るオーディオに感動していたこともあり、音の研究室に進み、東北大学の大学院、研究員時代は、多数のマイクホンやス

情報通信研究機構 NICT 先端研究

(87)

新たな音空間創出進行中

スピーカーを用いて音空間の創出である。に再生すると、スピー 2012年に情報通間の推定、制御の研究 自身初の創出は、上カーの近くでは雑音し 信研究機構（NICT）のような多言語音声マ ルチスポット再生とな も重要であるが、実際 もたらず重要な研究で あり、この分記の床と壁面合計15 か聞こえないが、部屋（T）に入所し、超臨場感 り、これも通常では起 り、これ得ない音空間であ り、この研究動機は、多言語同時再生に應用 る。これに対して、紹 介した音空間創出は非 常にわかりやすい、か し、音声認識、機械翻 訳、音声合成技術も統 一化された「ある言語の 話 者の翻訳された音声 が 同時に聞こえる」、 さらに新たな音空間の 創出も日々進行中であ る。この技術も講演会 などでの応用が期待で きる。（火曜日掲載）

先進的音声翻訳研究開発推進センター！ 先進的音声技術研究室 岡本 拓磨 12年4月、情報通信研究機構入所。超臨場感グループを経て、14年より音声グループに所属。現在は統計的音声合成および音響信号処理の研究に従事。博士（情報科学）。



スピーカーと音響信号処理技術により人々に感動をもたらす重要な研究であると考えており、自身の研究動機は、多言語同時再生に應用する。これに対して、紹介した音空間創出は非常にわかりやすい、しかし、音声認識、機械翻訳、音声合成技術も統一化された「ある言語の話者の翻訳された音声と同時に聞こえる」、さらには新たな音空間の創出も日々進行中である。この技術も講演会などでの応用が期待できる。（火曜日掲載）